

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

枚方市立津田小学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童（生徒）の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

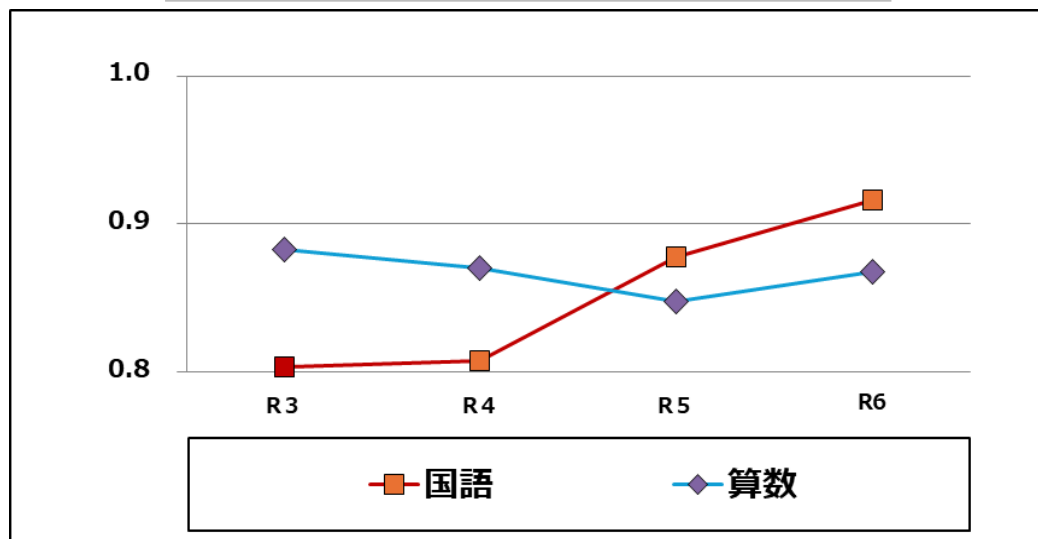
※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。

（全国の平均正答率を1とした経年比較）



<学力調査結果の概要>

○国語について

→令和3年度より、正答率が伸び続けている。学習した漢字を日頃から使うことの習慣化、また、並行読書や団体貸出図書を活用した学習活動、「読書ノート」を活用するなどの読書活動への取組、文章の内容についてよく考え、読み取りを行うなどが成果の要因であると考えられる。しかし、昨年度に引き続き、条件に応じて自分の言葉で記述、表現することが課題としてあげられる。

○算数について

→昨年より、正答率が上がっている。日々の学習の中で、問題文の大切な部分に線を引いたり、数直線や図を用いて考えたりするなど、また、視覚的に課題を捉えて相手に説明したり、学習を振り返るために自分が考えた過程を書くなどの活動に取り組んできた成果だと考える。しかし、依然として問題の場面を具体的にイメージすることに課題が見られるため、引き続き、問題が意図する情報を正しく捉え、それらを活用して思考する活動に取り組む必要がある。

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果①】

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題。

高山さんは、【高山さんの文章】を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた 部ア、イを漢字に書きなおすことにしました。

ア きょうぎの作戦を考えたりします。

上級生が遠くからボールをイ なげる

	正答率	無解答率
本校	80.8%	8.6%
全国	76.0%	8.0%

(考察)

学校のよさを伝える文章を書く場面を設定し、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかみる問題である。相手の読みやすさを考えて漢字を正しく書くことが求められ、学習指導要領においても読むこと以外に文章の中で使うことが示されている。

図書を活用した授業や、タブレットのデジタルコンテンツ(ナビマや漢字ドリル)の活用、タブレットで文字入力をする際に漢字を使うこと等、普段の生活から漢字の読み書きを意識した学習を行ってきた成果ではないかと考える。

【成果②】

文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる問題。

「かがやいています」の主語として適切なものを選びましょう。

はらっぱじゅうのもやが、ひかりの雲に変わり、そして、そのまんなかで、オニグモじいさんの巣は、かぞえきれないほどたくさんのお日さまでできているように、きらきら、きらきらとまぶしく かがやいています。

	正答率	無解答率
本校	65.7%	4.3%
全国	62.3%	2.0%

(考察)

この問題では、文章の内容を理解したり、表現したりする場合には、文の中での語句の役割や語句相互の関係に気を付き、文がどのように組み立てられているかを理解することが重要である。「～は」「～が」を手掛かりに形式的に判別するのではなく、文の構成を理解した上で、主語と述語の関係を捉えることが大切である。日々の授業の中で、文章の意味を正しく捉えながら読み取りを行っている成果ではないかと考える。正答は「巣は」だが、誤答として「まぶしく」と答える児童が多かった。

【課題】

目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題

【高山さんの取材メモ】をもとにして考えた「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。
- 「高山さんの取材メモ」の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

	正答率	無解答率
本校	50.0%	11.4%
全国	56.6%	4.9%

(考察)

目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題である。決められた字数内で書くことや、与えられた文章から言葉や文を取り上げて書くことは条件として満たしていても、そこに自分の考えとして明らかにしたこと、考えた理由を書くことも条件だったため、正答に至らなかったと考える。

今後も、自分の思いや考えをアウトプットする機会を、学年や児童の実態に応じて設ける必要がある。

<算数>

成果や課題があった設問

【成果】

速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる問題

4 あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

(2) たけるさんは、3分間で180m歩きました。同じ速さで歩き続けると、1800mを歩くのに何分間がかかりますか。答えを書きましょう。

	正答率	無解答率
本校	50.0%	11.4%
全国	56.6%	4.9%

(考察)

速さが一定であることを使って、道のりと時間の関係を考える問題である。時間と道のりが比例関係にあることを用いたり、道のりと時間と速さの関係を用いるなど、速さが一定であることをもとに、道のりと時間の関係について考える必要のある問題だが、全国平均と比べて正答率が高い。

これまでの学習活動で伴って変わる二つの数量の関係に着目し、それを表や式を用いて変化や対応の特徴を表す活動に取り組んできた成果であると考えられる。

【課題】

問題の場面の数量関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる問題

1 ゆうまさんたちは、折り紙であそんでいます。

(1) ゆうまさんは、折り紙を72枚持っています。

ゆうまさんが持っている折り紙は、こはるさんが持っている折り紙より、28枚少ないです。

こはるさんがもっている折り紙の枚数を求める式を、下のアからエまでの中から一つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア $72+28$
- イ $72-28$
- ウ 72×28
- エ $72\div 28$

	正答率	無解答率
本校	38.6%	0.0%
全国	62.1%	0.2%

(考察)

この問題では、場面の様子を想像する力が問われている。問題文の意味を理解しておらず、問題の場面をイメージすることができていないことが原因と考えられる。

何が問われているかを確認し、場面の様子を絵や図で可視化するとともに、およその数量について見通しを持ったうえで、立式するなど、情報の整理を正しく行う練習を積み重ねていく必要がある。

また、低学年時よりブロック操作や図を使い、場面をイメージできるよう繰り返し取り組む必要がある。

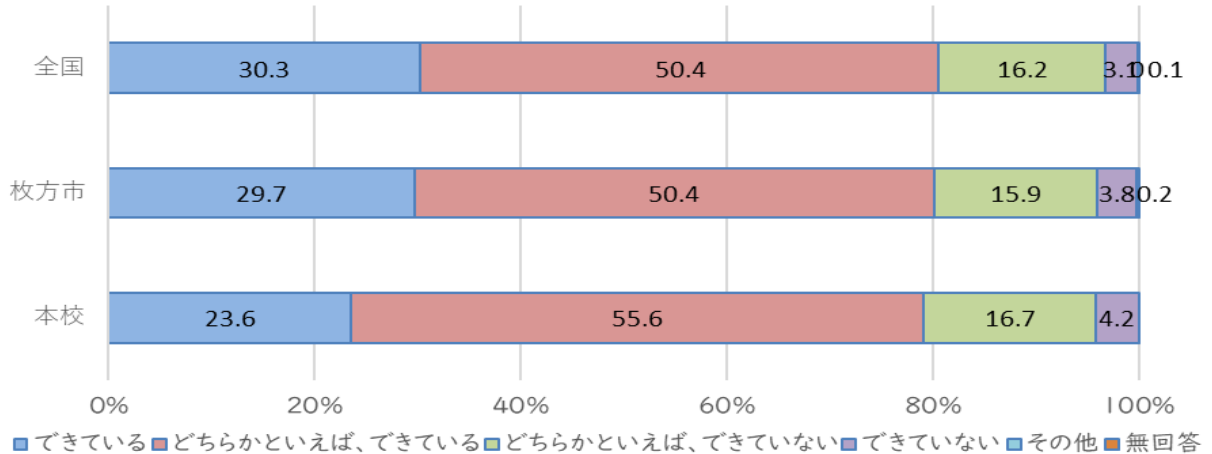
質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

質問紙の調査結果の中から、本校の校内研究テーマ「仲間とつながる授業づくり～きょうどう学習をとおして～」に関する項目を取り上げて、本校と全国、枚方市の比較をお知らせします。

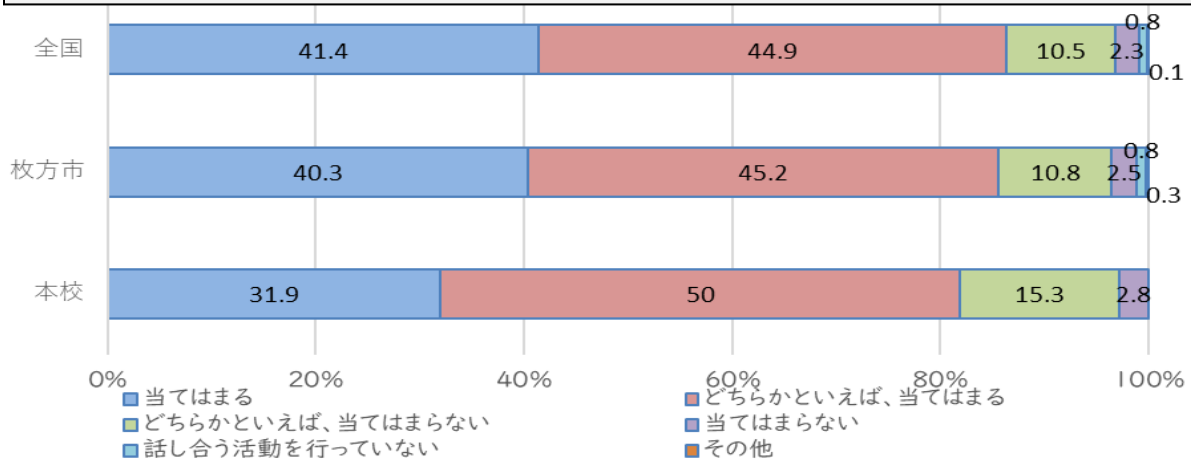
①

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている。



②

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。

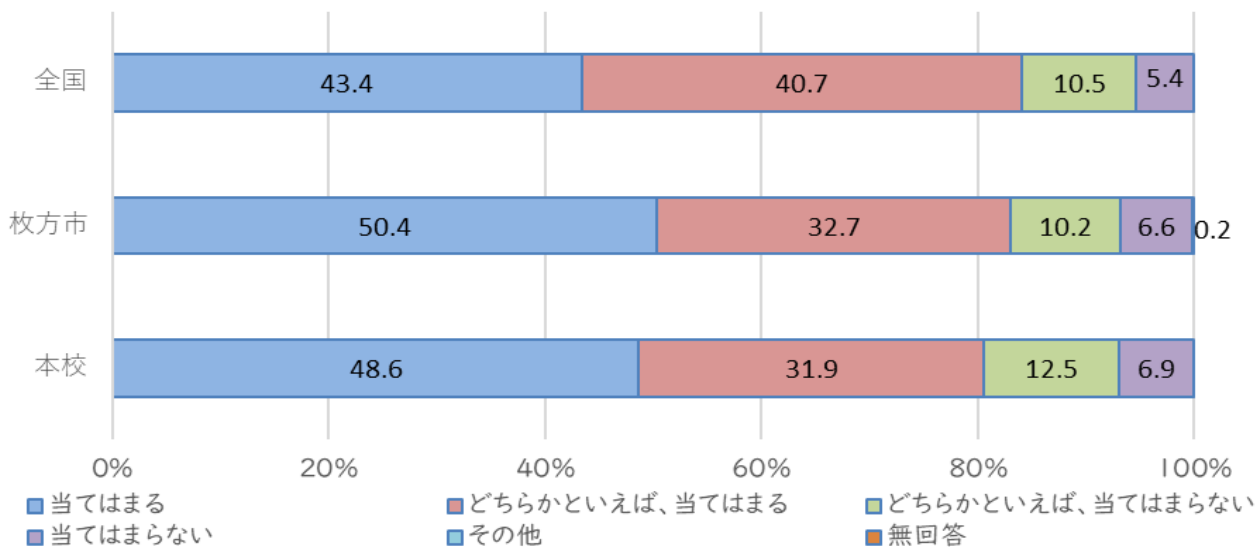


(考察) *上記は校内研究の取組の1つである、「聴き合う関係づくり」に関する質問項目の結果を取り上げています。

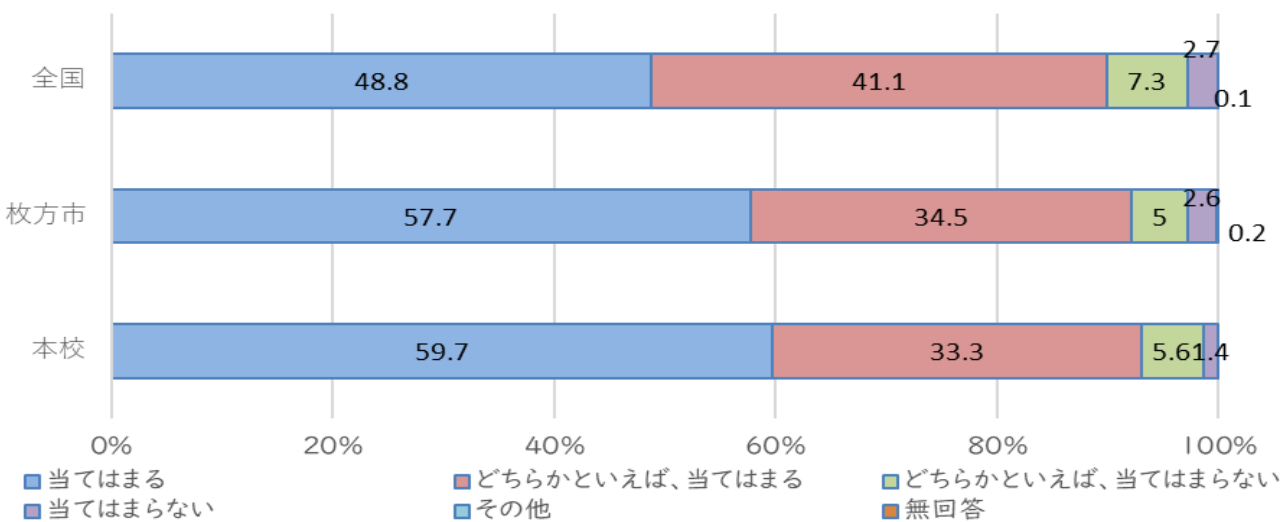
枚方市や全国と比較すると、「当てはまる」と答える児童がやや低い傾向にある。本校では昨年度に引き続き、「きょうどう学習」を意識した取組として「聴き合う関係づくり」を進めているが、「分からないときに聞くことができていない」「聞いていたとしてもそこで何か得られるような内容には至っていない」のではないかと考える。ただし、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の質問に対して、「当てはまる」と答えた児童が約79%(昨年度)から約82%(今年度)へと上がっていることから、相手に依存しながら自分の考えを深めることができているとも考えられる。

低学年から「話し方」「聴き方」などを指導し、次の学年へつなげていくことや、「聴き合う関係づくり」が構築できるように相手のもちあじを知り、いつでも自分の考えや思いを伝えられる「安心できる環境」の中で集団・仲間づくりに取り組んでいく。

③ 自分には、よいところがあると思う。

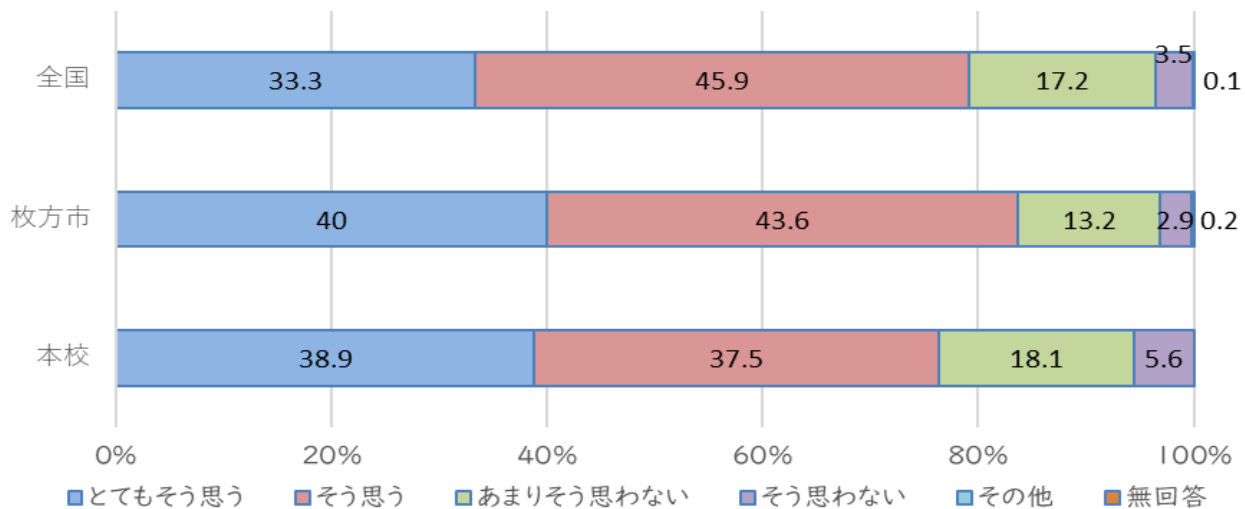


④ 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。

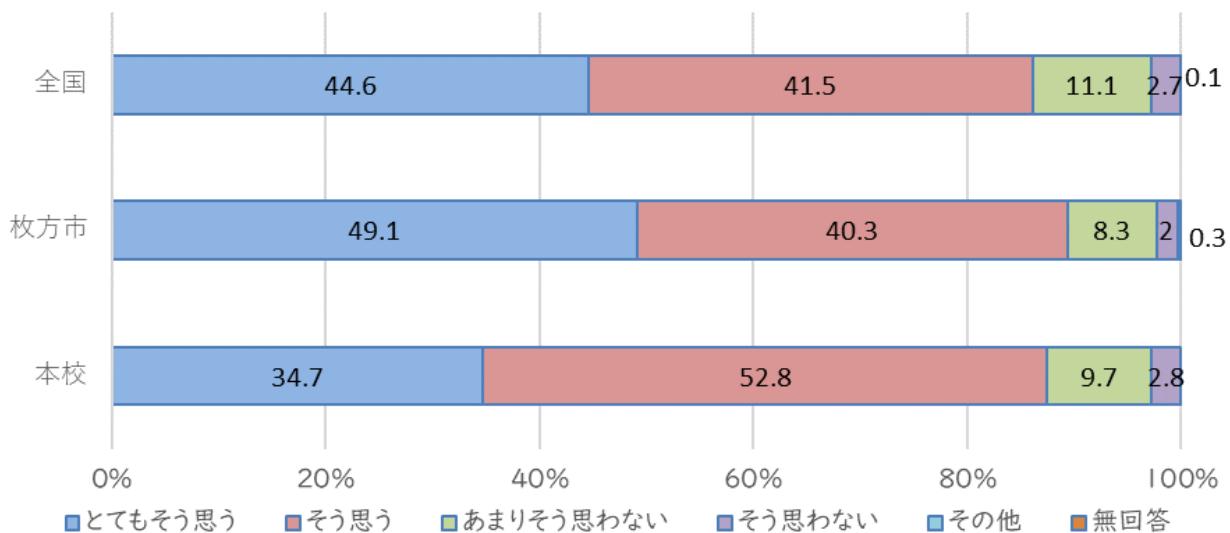


(考察) *上記は校内研究の取組の1つである、「もちあじ」に関する質問項目の結果を取り上げています。
 本校は全国や枚方市と比べ、教師から認められていると感じている児童が多いことから、学校全体で児童一人ひとりの成長を認める取組の成果が出ていると考える。昨年度に引き続き、児童の自己肯定感が高い結果が保たれているが、「教師が認めてくれているところ」が「自分の良いところ」とつながっていないことが明らかになった。本校では「もちあじ」を知り、認め合う活動に取り組む前から、日々の学級経営、学習活動等において、認め合う関係づくりを意識して行ってきた。しかし、今回の結果を受け、今後はより一層、自分の「もちあじ」を知り、相手の「もちあじ」も大切に、互いを認め合う集団・仲間づくりに取り組む必要がある。また、例えば「優しさ」「思いやり」などの「もちあじ」だけを見るのではなく、「思いやりがもちあじになっているのは、相手のことを考えた言動ができていいるから。」等、教師が価値づけて児童に伝える取組を全学年で取り組んでいく。さらに、自己選択・自己決定し、児童が主体的に取り組む学習環境も、自己肯定感等を高める要因であることから、児童が主体的に学ぶ授業づくりを推進していく。

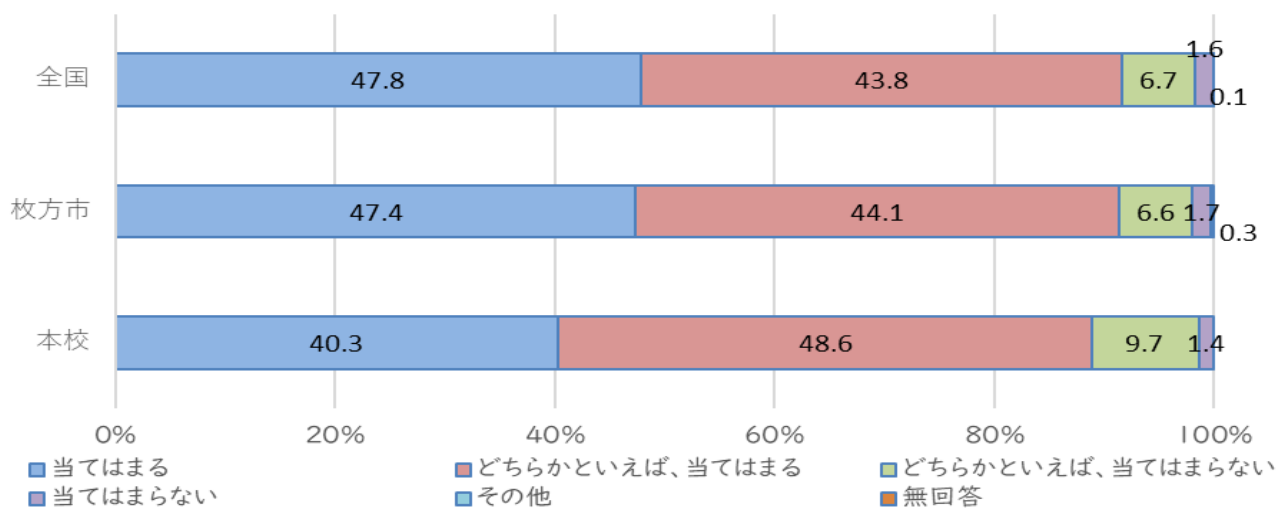
⑤ ICT 機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。



⑥ ICT 機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。



⑦ 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。



(考察) *上記は校内研究の取組の1つである、「きょうどう学習」に関する質問項目の結果を取り上げています。

本校では ICT 機器を活用して、課題を解決したり、考えを共有する場面が多く、楽しみながら学習を進めることができていると感じている児童が多い。個別最適な学びの方法として、「ノートではなくタブレットで」と選択する児童も多くいるなど、ICT機器が学びのツールの1つになってきている。ただ、③や⑦の結果から、ペア活動やグループ学習を行っていても、実際に「自分の考えが深められた」「みんなで課題解決に向けて取り組んでよかった」と実感している児童が少ないことがわかる。今後は、「困ったときに友達がいたから課題が解決できた」という経験を積み、「1つの課題をみんなで考えて話し合う」などの活動をより多く取り入れ、児童同士が「きょうどう学習」の良さを感じられるようにするとともに、児童が主体的に学ぶ「探究学習」を中心とした授業づくりにも取り組む。

【各分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと】

(1) 授業改善について

校内研テーマ「仲間とつながる授業づくり～きょうどう学習を通して～」を意識して…

- みんなでやり遂げる経験を通して、お互いを知り、**認め合う活動**をさらに増やす。
- ICT 機器を活用することの良さ**（考えを共有、比較できるなど）をより一層実感できる授業づくりを行う。
- 日々の学習活動や特別活動の中で、自分のよいところ、相手のよいところを知ったり、考える場を設け、**安心・安全の環境を整える**とともに、**自分の考えや思いを安心して伝えられる集団・仲間づくり**をさらに推進する。
- 国語では、ICT機器を活用して**漢字の読み書きの定着を図る**ことや、連絡帳やノートを書く際は、**学習した漢字を使っていく**ように指導する。
- 児童の実態や教科に応じて、文字数や条件付きの振り返りを行い、**自分の考えを明らかにして説明できる力の育成**するために、**文字数を制限した振り返りシート**を活用する。
- 算数では、図や表、絵やグラフなど、**自分で書いて考えられるように繰り返し練習**する。
- 文章題の読み取りで、**大切な言葉に印をつける、線を引く、文節で分けて内容を理解する**などの機会を増やす。
- 低学年からブロック操作や具体物の活用、中学年や高学年では図や表、絵やグラフなど**視覚的に見てイメージを持てる工夫**を取り入れる。
- 日常会話の中で「だれがどうした」「何がどうした」など、**主語と述語を明確にして話ができる**よう指導する。
- 教師主導の授業を脱却し、自己選択・自己決定をしながら、課題解決をする子ども主体の授業づくりをする。

(2) 家庭学習について

①タブレットを活用した家庭学習に取り組む

- ・ナビマや漢字ドリルのデジタルコンテンツを活用する。
- ・音声データを聞いて、音読練習をする。練習した様子や音声データをロイロノートで提出する。
- ・お手本を見て視写をする。

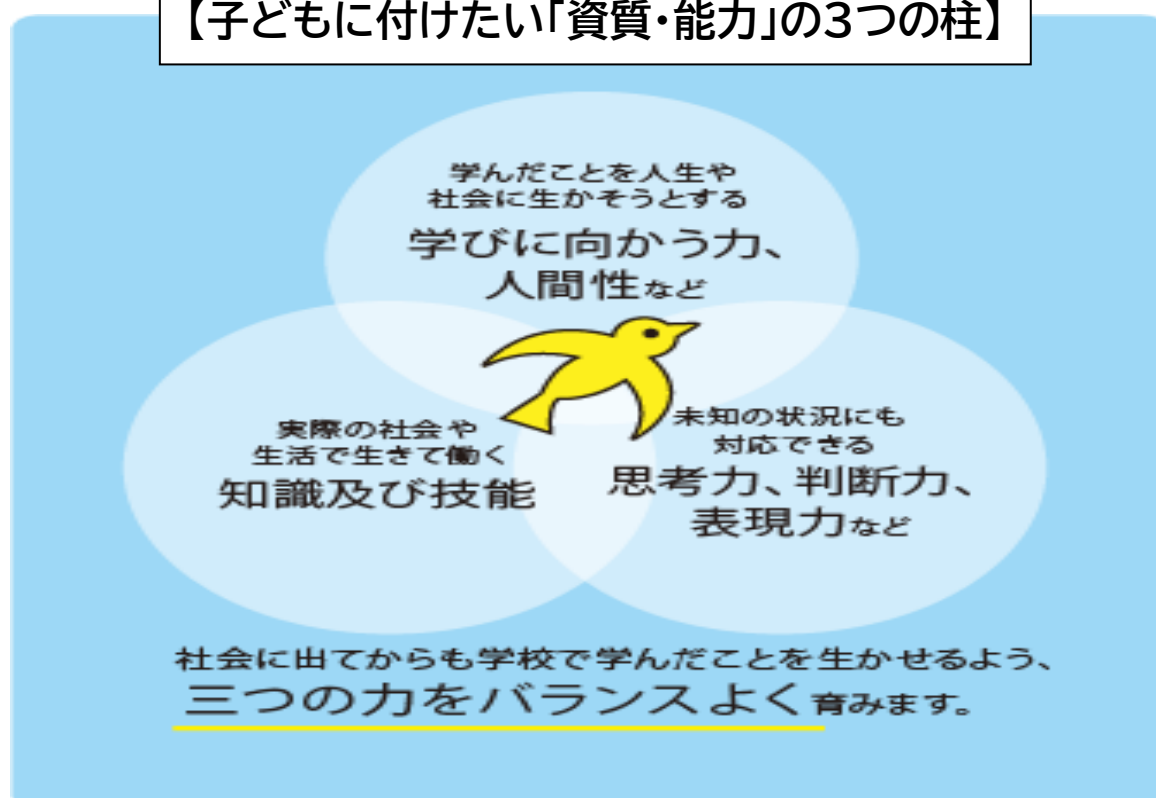
②児童が自分に合った方法で学習に取り組む

- ・最終的にタブレットで提出することは決めておいて、プリントに書くか、タブレットで入力するか、自分で決め、取り組ませる。
- ・自主学習ノートの締め切り日や取り組むルールは伝えておいて、どのようなペースで取り組むか自分で決め、取り組ませる。
- ・自分の苦手なことも自主学習ノート等で取り組むよう支援・指導するとともに、興味関心のある内容について自ら進んで調べ学習として取り組ませる。

③「書く」ことを意識した家庭学習に取り組む

- ・週末に作文の宿題を出す。テーマや文字数など書くときの条件など伝えておく。
- ・探求学習やテスト勉強を自主学習として取り組めるよう、「取り組み方」「方法」を指導する。

【子どもに付けたい「資質・能力」の3つの柱】



- ①何のために学ぶのか 学習することの「意義」を明確にし、授業の創意工夫、教材の改善をしていきます。
- ②どのように学ぶのか 「主体的・対話的で深い学び」の視点から「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」を重視して授業づくりをします。
- ③何を学ぶのか すべての教科や活動において、横断的に学んでいきます。

一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」と思える授業に



見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業に

周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業に



自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業に